

# 一匁の一助さん

赤 橋 尙 太 郎

横須賀市附近の子供遊うたの中で、まりつきうたに「一匁の一助さん」がある。面白い節まわしなので早くから注意していた。私はこのうたを昭和十四年に大津で採集した。その後二十年ばかりたったがまだ子供らがうたっている。このうたは大船あたりから三浦半島一帯に広がっている

らしく、横須賀市立工業高校郷土研究部の調査では鎌倉市市場・横浜市桂・同六浦・逗子市沼間・葉山町一色・長柄・横須賀市長浦・吉倉・逸見・汐入・坂本・安浦・大津・馬堀・走水・浦賀・久里浜・野比・長沢・津久井・小矢部・平作・長井、三浦市和田等で採集されている。歌詞はかぞえうた風になっていて一匁から十匁までうたい、又一匁にもどるようである。

- 一匁の一助さん、一の字がきらいで、一万一千一百石、一斗一斗一斗米、お倉におさめて二匁にわたした。
- 二匁の二助さん、二の字がきらいで、二万二千二百石、二斗二斗二斗米、お倉におさめて三匁にわたした。
- 三匁の三助さん、三の字がきらいで、三万三千三百石、三斗三斗三斗米、お倉におさめて四匁にわたした。
- 略（四匁より九匁まで同じやり方）
- 十匁の十助さん、十の字がきらいで、十万十千十百石、十斗十斗十斗米、お倉におさめて一匁にわたした。

ここに示す曲は坂本の田中すぎ先生の採譜で、坂本辺の子供がうたっている節まわしであるという。私が聞き覚えていたのと部分的に少異はあるが大体同じである。市音楽指導員の鯨井孝一先生が二部合唱にこれを編曲したのを坂本小学校児童がうたったのをきいたが面白い試だと思った。

大船辺から鎌倉にかけては左のようなこの歌の変形もうたわれている。

一匁の一助さん 採譜 田中持子

いちもんめの いっけさん いのじが きらいで  
 いちまんいっせん いっけこく いっといっと いっとまい  
 おくらに おさめて にほんめに わたした

一匁の一すけさん、芋屋のおばさん、芋屋のおばさん、芋ちようだい。二匁の二すけさん肉屋のおばさん、肉ちようだい。三匁の三すけさん、魚屋のおばさん、魚ちようだい。（四匁…しいたけや、五匁…ごぼう屋、六匁…ろうそく屋、七匁…しちりん屋、八匁…はこ屋、九匁…きゅうり屋、十匁…重箱屋）。